甲府一高新聞

１０月号

発行所
甲府一高新聞部
甲府市美咲二丁目13-44

強行遠足開始から100年目

第96回強行遠足が10月5日から6日にかけて行われ、男子307人、女子321人が己の限界に挑戦した。台風等の理由により過去に4回中止となったが、開始から100年目の今年度は従来通り男子104㌔、女子41・6㌔で実施された。天候が大きく変化するなか、参加した生徒全員がそれぞれの目標を目指して歩みを進めた。

10月4日、第96回強行遠足の出発式が体育館で行われ、生徒はPTA会長、同窓会長からの激励を受けた。翌5日の午後2時、天候悪化による強行遠足への影響が心配されるなか、飯島校長による号砲とともに3年生男子を先頭に本校を出発した。男子は5日の午後2時から翌日6日の午後2時までの24時間で、女子は6日の午前7時から午後4時までの9時間を制限時間としてで実施された。今大会では、男子の実施中に雨が降り、女子の実施中には晴れて急激に気温が上昇し、体力の消耗が激しかったことがうかがえた。また、強行遠足の目的の一つは「自己の体力の限界に挑むこと」であり、完走が目的ではないが、今回の結果は次の通りである。

男子の小諸到達率は、昨年度の到達率を6・8%下回る35・5%であった。学年別に見ると1年生は14・7%、2年生は46・6%、3年生は47・3%となった。最初に小諸に到着したのは増田郁太さん（3年）であり、午前2時38分だった。

女子の小海到達率は雨天によるコース短縮があった昨年度の到達率を15・4%下回る74・1%であった。学年別に見ると1年生は60・2%、2年生は74・5%、3年生は85・8%となった。最初に小海に到着したのは田中佑実さん（3年）であり、午後0時27分だった。

体育振興係の花輪秀剛先生は、今回の強行遠足を「男子は途中に雨が降り天候が悪くなったが、その中でも諦めず頑張った。女子は、雨が降った時間帯や午後に気温が高くなり、天候に左右され大変だったと思う。事故がないよう最善を尽くして実施をし、大きな事故やハプニングがなく終えることができて安堵している。また、一高の伝統行事である強行遠足を無事に終え、来年に繋げることができ嬉しく思う」と総括した。

【 小雨の中走り出した３年男子 】

多くの方々の協力

今年度の強行遠足も、保護者の方々をはじめとし、同窓会の方々やこの春一高を卒業した先輩方の支えがあり無事に終えることができた。協力してくださった方々の声援が生徒の背中を優しく後押しし支えてくれたことに心から感謝したい。

2年女子の保護者

今年度は清里給水所付近で女子生徒の誘導をしました。生徒一人ひとりが、一歩一歩着実に懸命に歩く姿を見て感動しました。また、疲れている中でも笑顔で挨拶を返してくれたことに感銘を受けました。生徒の皆さんは、今回の強行遠足で得ることができたものを日々の生活に活かし、様々なことに挑戦していってほしいです。

3年女子の保護者

野辺山で生徒の誘導を行いました。雨が降ったり、晴れたりと、天気の変化が激しい中でも一生懸命に前に進んでいく生徒のひたむきな姿勢に感動しました。特に、仲間同士、笑顔で励まし合いながら歩く生徒たちが印象に残っています。

【　山中を歩き進む２年女子 】

強行遠足を終えて

●男子先頭
3年6組　増田郁太さん

雨が降る中、最後の号砲が鳴った。今年は、3回目ということもあり、正直気楽に行けると思っていた。しかし、実際は違った。序盤で足に疲れや痛みが出始め、何度も諦めかけた。前進する中で車からの声援や協力してくださっている保護者やOB、OGの方々からの声に力が沸いた。終わってみると最後の強行遠足は今までで一番つらく、過酷なものとなったが、弱い自分に打ち克つことができた。協力してくださった皆様ありがとうございました。

3年7組　杉山知哉さん

第96回強行遠足で若干1名の超人を除いて1位ゴールをすることができ、光栄です。3年目にしてずっと目標であった1号車で帰ることを達成できて、とても嬉しかったです。なぜか御守りをまったくもらえなかったので、バレンタインは3年7組17番杉山知哉まで、今度こそよろしくお願いします。

●女子先頭
3年4組　田中佑実さん

今回の強行遠足は、一昨年の自分に勝ち、そして昨年雨で途中中止となった悔しさを晴らすつもりで臨んだ。小海に行ける自信はあったので、どれだけ早く着くことができるかという自分との闘いだと思っていた。正直、序盤からペースを上げていたので最後まで持つか不安だったが、これが最後の強行遠足だから全て出し切ろうと思って進み続けた。今年は天気にも恵まれ、とても楽しく、自分の力を存分に発揮することができたと思う。この強行遠足という経験を糧に、何事にも自信を持って挑戦したい。また、強行遠足の実施に関わってくださり、応援していただいた多くの方に感謝したい。

強行遠足を終えて

・中山結貴さん（1年）

初めての強行遠足で最初はとても緊張していました。また、途中歩くのが辛くなり下を向きそうになった場面も多くありました。しかし、一緒に歩いていた友達や、先生方、各検印所・給水所にいた方々からの応援のおかげで諦めそうになった時でも、また歩き出す勇気をもらいました。今回の強行遠足で、自分の限界を知ることができたとともに、その限界を超えることができました。初めての強行遠足で沢山のものを得ることができて楽しかったです。

・矢﨑尭聖さん（2年）

2回目となる強行遠足は、途中雨が降りとても厳しい中でしたが完走することができて良かったです。今年完走することができたのは、去年歩き切ることができず、悔しい思いをしたからです。1年生で経験した強行遠足での反省点を活かし、完走を目標に自分なりの目標を立てました。そして、共に行動をしてきた仲間や一高のOB・OGや先生方の応援があったからこそ諦めずに完走することができました。目標を達成したことによって自分の中で心境が変化し、より良い方向に向いたように感じます。また、強行遠足の意義を深く理解することもできました。来年も小諸到達に向けて努力を重ねます。

【　笑顔でゴールテープを切る３年女子 】

我らが　精鋭

英語　松尾聡美先生

―どんな学生生活を過ごしましたか？

両親の意向もあり、大学に入るまでは勉強中心の生活を送っていました。ただ、勉強が嫌いだったわけではなく、むしろ高校に入ってからは授業が楽しかったです。特に生物と地学の授業は先生の話が面白くて好きでした。勉強以外では、学園祭やミュージカル等の学校行事にも力を入れていました。

―英語の先生になったきっかけはなんですか？

大学進学後、入った合唱サークルで人と関わることの楽しさを知ったことがきっかけです。その後、高校生時代に「勉強を教えるのが上手いね」と友人に言われたことが印象に残っていたこともあり、教師を志しました。

なかでも英語という教科を選んだ理由は、英語が一番得意な教科だったからです。

―休日は普段何をして過ごしていますか？

山梨に引っ越してきてからまだ日が浅いこともあり、よく地元のスーパーや市場を巡って新しい発見を探しています。最近でいうと、たまたま栗が目につき購入したところ、東京のものとはまた違ったおいしさに驚かされました。

また、大学生の頃に合唱サークルに所属していた経験から、当時の合唱団の友人と月二回ほど東京に集まって、合唱の練習をしたり演奏会に参加したりしています。一高のア・カペラ部にも興味を持っています。

―一高生にアドバイスを一言お願いします

日頃から自分が感じたことや考えたこと、思ったことを頭の片隅に入れて、忘れないでください。学生のうちに漠然と考えていたことが、大人になったときに自分の将来を決める指針にも、行きたい場所に到達するために役立つこともあると思います。高校生になって自我が芽生える今だからこそ、その感覚を大切にしてほしいです。

Enjoy yourself